

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議 次 第

〔 日 時 平成 30 年 10 月 24 日(水) 16:20～17:50 〕
〔 場 所 シルクホテル 錦繡の間 〕

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項 I

分科会の検討結果を踏まえた伊那谷自治体会議の取組について

4 報告事項

(1) リニアに関する国の動きについて

(2) リニア中央新幹線長野県駅とのアクセスに係る意向調査について

(3) リニア駅周辺整備の検討状況について

5 協議事項 II

リニアバレー構想の実現に向けた具体的取組について

(1) 伊那谷と大都市圏との対流促進について

(2) リニア関連地域振興策の取組実施体制について

6 そ の 他

7 閉 会

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議
出席者名簿

(敬称略)

■伊那谷自治体会議

職名	氏名
知事(座長)	阿部 守一
飯田市長	牧野 光朗
伊那市長	白鳥 孝
駒ヶ根市長	杉本 幸治
南信州広域連合(平谷村長)	小池 正充
上伊那広域連合(南箕輪村長)	唐木 一直
上伊那地域振興局長	堀田 文雄
南信州地域振興局長	土屋 智則
伊那建設事務所長	高橋 智嗣
飯田建設事務所長	坂田 浩一
事務局(リニア整備推進局)	水間 武樹

■長野県関係者

職名	氏名
建設部長	長谷川 朋弘
企画振興部 交通担当部長	佐藤 公俊

■リニア・モビリティ革命と都市・地域フォーラム

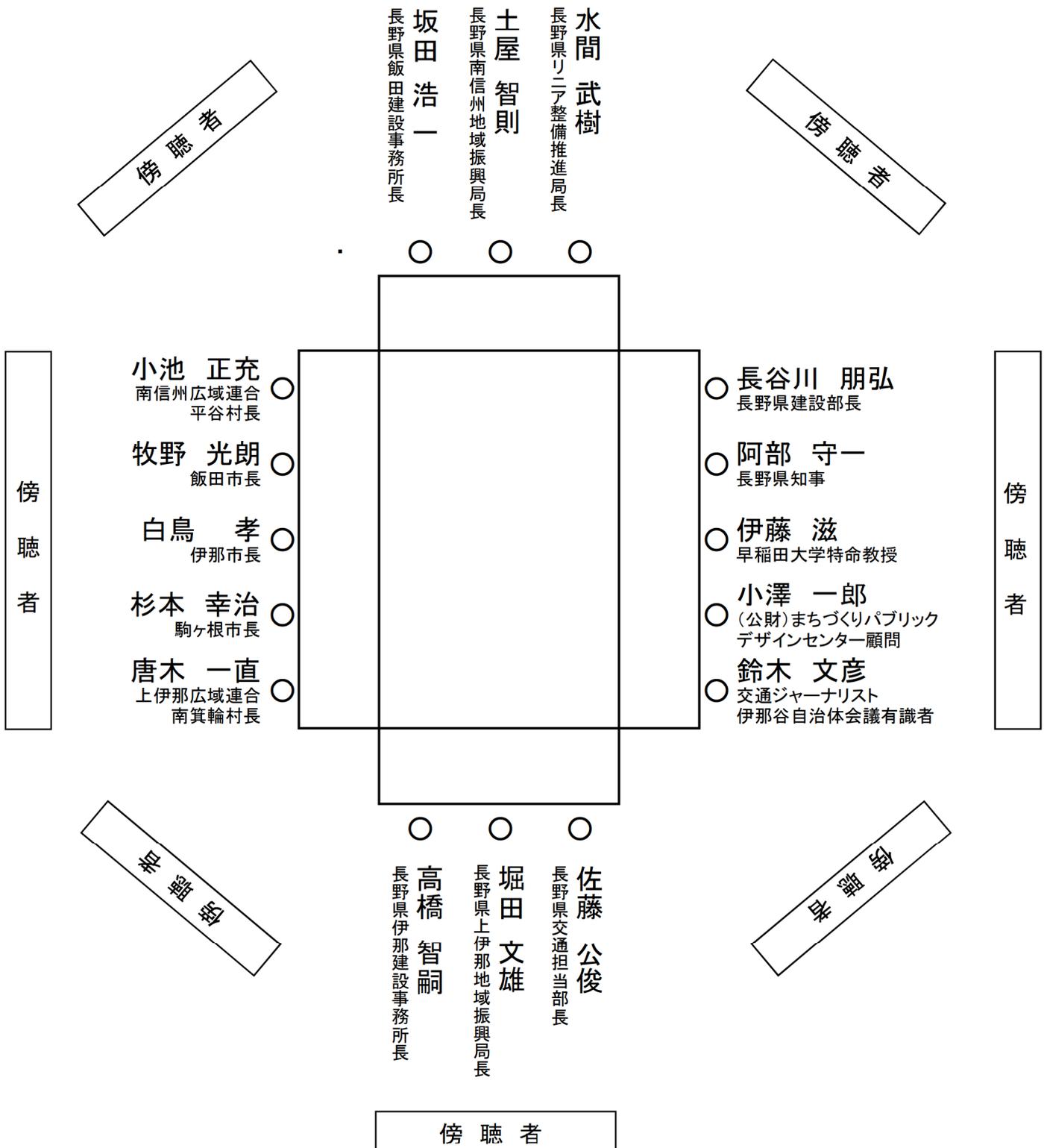
職名	氏名
早稲田大学特命教授(座長)	伊藤 滋
(公財)都市づくりパブリックデザインセンター 顧問 まちづくり分科会 座長	小澤 一郎
交通ジャーナリスト 伊那谷自治体会議有識者 観光・交通分科会 座長	鈴木 文彦

「リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議」

配席図

日時 平成30年10月24日(水)16:20～

場所 シルクホテル 錦繡の間



スーパー・メガリージョン構想検討会 中間とりまとめの概要

建設部リニア整備推進局

第1章 スーパー・メガリージョン構想について

第1節 スーパー・メガリージョン構想の議論の背景

《 略 》

第2節 リニア中央新幹線の概要

《 略 》

第3節 スーパー・メガリージョン構想検討会の趣旨

《 略 》

第2章 我が国が直面する状況の変化とリニア中央新幹線がもたらすインパクト

第1節 我が国が直面する状況の変化

《 略 》

第2節 リニア中央新幹線による劇的な時間短縮がもたらすインパクト

(1) フェイス・トゥ・フェイスコミュニケーションが生み出す新たなイノベーション

- ・リニアによる移動時間の劇的な短縮は、フェイス・トゥ・フェイスコミュニケーションの機会を増加させるとともに、人と人の信頼形成や「価値をつくる」ための試行錯誤等に必要なが交流時間の拡大につながることが期待される。

(2) 「時間」と「場所」からの解放による新たなビジネススタイル・ライフスタイル

- ・リニアは、働き方や暮らし方を制約する「時間」と「場所」から人々を解放し、多様な選択肢をもたらすことで、ビジネススタイルやライフスタイルに変化をもたらすことが期待される。
- ・離れて暮らす親・子・孫世代がリニアを通じて往来が容易になることで、互いに助けながら暮らす近居的な関係を築く可能性も期待される。
- ・大都市に住みながら地方のサービスを受受したり、地方から大都市への通勤や通学、大都市から地方への移住、二地域居住等、「都市と都市」、「都市と地方」等に跨った新しいビジネススタイル、ライフスタイルが生まれる可能性がある。
- ・地域内外の多様な人材の対流・交流が新たな価値創造に寄与し、持続可能な社会を構築していくことも期待される。

(3) 海外から人や投資を積極的に呼び込む

- ・国内の各研究拠点が先進的な研究開発を進め、高速交通ネットワークがつながることで、国内外から新たなビジネスを求める人々が集まり連携するナレッジリンクが形成される可能性がある。
- ・地方へのアクセスが改善され、訪日外国人旅行者のゴールデンルートから地方への誘客がさらに促進し、経済効果の全国への波及が加速度的に進むことが期待される。

(4) 災害リスクへの対応

- ・国土の骨格にかかわる高速交通ネットワークの多重性・代替性を強化し、持続的なヒト、モノの流れを確保することが期待される。
- ・東京圏に集中する人口及び企業の中核機能等の分散や、首都機能を始めとする中核管理機能のバックアップ体制の整備等に寄与することも考えられる。

第3章 正のスパイラルを生み出し、世界を先導するスーパー・メガリージョン

第1節 スーパー・メガリージョンの形成により実現が望まれる将来の姿

- ▶ グローバルダイナミズムを通りこみ、日本がこれまで培ってきた技術や文化を活かした経済成長を実現しながら、各地域が個性を活かして自立する持続可能な国
- ▶ 都市部においても地方部においても、各個人が望むライフスタイルの実現に向け、多様な選択肢を持つことができる多様な価値観を支える国

第2節 三大都市圏の一体化による巨大経済圏の誕生と我が国の経済の飛躍

- ・各都市圏の個性をさらに伸ばすことで、各分野の優れた企業や人材、投資の集積を目指す。
- ・各都市圏が、劇的な移動時間短縮のメリットを活かして相互に連携し、一つの巨大経済圏になるとともに、魅力を海外に発信していくことでスーパー・メガリージョンの期待値を高め、グローバル企業における認知度の向上、マインドシェアの拡大を図ることが重要となる。
- ・中核・中枢都市等においては、三大都市圏との繋がりをより強固にすることで、スーパー・メガリージョンの成長を引き込み、自らも成長していくことが期待される。

第3節 クリエイティビティと地域の魅力が融合による新たな拠点の誕生

- ・リニアによって結ばれる三大都市圏の間に位置する中間駅は、多様な人材が活発に行き交いクリエイティブな交流が生まれる、新しい知的対流拠点となる可能性を秘めている。
- ・そこで創出される高度な付加価値が、周辺地域の魅力と融合することで、地域の強みを活かした新しい産業の創出や、既存産業の高付加価値化に寄与することが期待される。
- ・大都市で働きながら自然豊かな地域で暮らしたり、ライフステージに応じた住み替え先となるなど、新たな居住の選択肢を提供する地域に発展していく可能性がある。
- ・地域の食文化や農業をテーマとした参画型のプラットフォームをつくり、大都市や近郊で増加する高齢者を呼び込み社会参画させる取組は、高齢者に生きがいを与えるとともに、地域間の交流・対流を促進する観点からも期待される。
- ・中間駅周辺地域は、活発な知的対流と地域の魅力に即した豊かなライフスタイルが結びついた、新たな拠点に発展していく可能性を秘めている。
- ・さらに、新しいコンセプトのライフスタイルを海外に発信するなど、世界を先導する独自性と先進性に優れた質の高い地域を目指すこと等も期待される。

第4節 広域的に波及するスーパー・メガリージョンの効果

- ・既存交通のストック効果を高め、リニア駅を交通結節の核とした高速交通ネットワークの形成が求められる。
- ・自動運転をはじめとした交通分野の技術革新が急速に発展しており、将来的にはこうした新しいモビリティ技術の活用も期待される。
- ・各都市圏、各地域が自らの個性を伸ばしていくことで、人が移動することの価値を高めるとともに、フェイス・トゥ・フェイスによる濃密なコミュニケーションを生み出しやすい環境整備をハード・ソフト両面から行う必要がある。
- ・新たなビジネススタイル・ライフスタイルの普及に向けた社会政策や税制等、様々な側面から取組を進めていく必要がある。
- ・東日本、西日本を含め、中枢・中核都市等が、自ら世界に直結し、スーパー・メガリージョンとも対流しながら、相乗効果を発揮できるよう施策を講じていくことも期待される。

今後のスーパー・メガリージョン構想検討会 検討スケジュール

回数	日付	時間	場所	内容（プレゼンテーション）
第14回	11月2日（金）	15:00 ～16:30	国土交通省	・東京商工会議所 ・相模原市
第15回	11月16日（金）	10:00 ～12:00	〃	・愛知県 ・名古屋市 ・岐阜県 ・中津川市
第16回	12月17日（月）	13:00 ～16:00	〃	・神奈川県 ・山梨県 ・甲府市 ・長野県 ・飯田市 ・中部経済連合会
第17回	1月18日（金）	午後	大阪市内	・関西経済連合会 ・大阪府 ・大阪市 ほか
第18回	2月12日（火）	13:00 ～15:00	国土交通省	・東京都 ・事務局説明（最終とりまとめ骨子案）

※平成31年夏頃 最終とりまとめの予定